

お母さん

私にどんな

謎をかけたの

母の介護を通して 壊れかけた家族が ひとつになろうとしている

母のいる場所

映倫
117-99

楳坪夢鶴子監督作品

第5回監督作品「老親ろうしん」にて受賞
日本カトリック映画賞最優秀映画賞
山崎ふみ子映画賞福祉賞 藤本賞特別賞

原作 久田恵

「母のいる場所

シルバーウィラ向山鈴音」 文藝春秋刊

出演

紺野美沙子 馬淵晴子 野川由美子 米倉斉加年 小林桂樹

岡野進一郎 磯部勉 天田俊明 高田敏江 長内美那子 風見章子 東郷晴子 小林勝彦 利根はる恵 藤塚勝 御道由紀子 大木正司 菅原あき 福原秀雄 伊藤ゆきえ 向井修 草川祐馬 筒井巧 藤木勇人
鈴木飛雄 戸川暁子 由起艶子 坂田純子 大西多摩恵 天田益男 俵一 久保田理香 木島あずさ 寺島咲 佐藤未来 片岡涼 細山田隆人 東大演劇同窓会 劇団東俳 スタース21 研究生

(友情出演) 片桐夕子 小笠原町子 三輝みきこ 木島知草 堀内正美 仕舞い「綾の鼓」指導 宝生流・渡邊荷之助 鼓：鶴澤洋太郎 舞い：柏山聡子

企画製作・監督：楳坪夢鶴子 原作：久田恵 脚本：下島三重子・楳坪夢鶴子 製作：光永憲之 撮影：園書紀芳 照明：岩崎豊 録音：木村瑛二 編集：普嶋信一 音楽：光永龍太郎 美術：和田洋 監督補：鈴木康敬 製作担当：吉村繁
衣装：東京衣装(株) 音響効果：カモメファン 録音スタジオ：日活撮影所 現像所：(株)IMAGICA

劇映画 1時間56分/European Vista/35mm

企画・製作 企画制作 パオ(有) 母のいる場所製作委員会

〒156-0044 東京都世田谷区赤堤2-43-13-531 Tel. 03-3327-3150 Fax. 03-5376-8462

www.pao-jp.com

フリーライターでシングルマザーの主人公・久野泉（45歳 紺野美沙子）は7年間、脳血栓で右半身不随になった母・道子（馬渕晴子）の在宅介護と子育て、そして仕事に追われる。70歳まで仕事人間だった独断的で頑固な父・賢一郎（小林桂樹）とは、介護をめぐる終始喧嘩が絶えない。

小学生の息子・遼は、チック症になり、「僕にはお母さんがいない」と作文を書く……。高校に入ると、すぐ不登校になった。

泉はユニークな有料老人ホームの施設長・悠子（野川由美子）に出会い、入所を選択する。「Noを言わない」のがホームの方針で、痴呆の人を、「お分かりにならない方」と呼び、酒もタバコも恋愛も自由、入居者もスタッフも“ともにいきいき輝いて”暮らしている。やがて、母は笑顔を取り戻し、そこが「母の居場所」となる。

父の鼓に合わせて舞う母……イメージの舞台上、八重桜が舞い散る。



監督

榎坪亨鶴子

代表監督作品

子どもたちへ 若人よ 地球っ子 わたしがSuki 老親ろうしん

企画意図

人は誰でも老いを迎え、病気や障害を抱えたり、不安と孤独から痴呆になったりする可能性があります。

“男女共同参画”が叫ばれる時代ですが、老親介護、子育てを依然として女性たち（妻、嫁、娘）が担い、「子育てにお金のかかる四十代、五十代の世代が老親介護で家族崩壊の岐路に立って」います。

この作品は、原作者・久田恵さんの実体験によるものです。介護する者される者、それぞれの自立とは何か、介護とはどういう事か、ふさわしい最後の居場所はどこなのか……。

この映画が、夫婦のあり方や親子関係を見つめ直すきっかけになりますように。



わたし……

お母さんのかけた謎がわかったような気がする。

原作 久田 恵

「母のいる場所 シルバークワイラ向山物語 文藝春秋刊」



日本中で、今、介護を巡ってさまざまな物語が生まれています。百の家族に百の介護物語あり、です。

この映画もそんなあまたの物語の中の一つ、十年の在宅介護の果てにユニークな老人ホームにたどりついた我が家の奮戦模様が描かれています。でも、そこには多くの人が体験するであろう親子の葛藤、老いの哀しみ、おかしみ、家族って、人生って、老いるって、どういことなの？ という切実な問いやら発見やらが詰まっています。

車椅子の榎坪監督が、老いた母同伴で撮影に通い、介護世代の女たちへの深い共感を元に完成させた真情溢れる作品です。撮影現場は実際の我が家や母のいたホームが使われ、作品を一層ビッドにする効果を果たしました。ご自身の家族の物語に重ねて観ていただきたく思います。

推薦 黒柳 徹子

女優 エニセフ親善大使



榎坪さんは『不屈の人』です。笑顔でお話なさる彼女を見てみると、長年の慢性関節リウマチに苦しみ、車椅子に乗りながらメガホンをとってる映画監督とは、全く想像できません。そしてさらに驚くべきことは、彼女はいまご自身も不自由な上に、痴呆の始まってしまったお母様の介護もしていらつしやること！ そしてさらに更に驚くのは、そのお母様が彼女の車椅子をどこに行くときも見事に押していらつしやること！ 「徹子の部屋」の収録で実際にお目にかかったお母様はとてもお元気で人懐っこい笑顔を私に返して下さいました。必要とされていることの、よさを感じたいと思えました。「二人で介護しあい、お互いの存在を『必要よ！』と確認しながら生活しているのよ」榎坪さんの強さが感じられる言葉です。

今回の映画「母のいる場所」は老人ホームのお話です。今の日本には残念ですが、まだまだこのような施設が足りません。頑張ってきたお年よりの方々が楽しく暮らせて、支える家族の負担がもっと減らせる環境が絶対に必要です。この映画には老親問題・介護問題の『喜怒哀楽』が入っています。

深刻に考えるだけでなく、笑いながら温かい気持ちで問題の解決方法を見つけていく……とても勇気付けられる映画です。

多くの方々に……特に若い方達！ 豊かな大人になれるでしょう。また現在、こういう生活にあるかた！ 心強くなれるでしょう。心細く生きているかた！ 大丈夫、みんな頑張っているのですから。様々な世代の方にお勧めします。